

メダカの誕生 問題集 (全17問)

名まえ

日づけ

点数

/17

空らん (①) (②) … には、そこに入る語句を書き入れなさい。
横線の問題は、答えを線の上に簡潔に書きなさい。

- 見分けの目印は「(①) の (②) 」と「(③) の形」。
- オスの背びれにはどんな特徴があるか。

- しりびれの形はオスとメスでどう違うか。

- 卵 + (①) → (②) 。受精卵だけが新しい命に育つ。
- 受精とは何か。

- 受精した卵を何というか。

- 受精卵はどのくらいで孵化するか。

- 受精卵の中では、どんな順序で変化が起こるか。

- 孵化したばかりのメダカはすぐに餌を食べるか。

- 飼育の基本は「20～25℃の (①) 」 「(②) 」 「明るすぎない置き場所」。
- 水温はどれくらいに保つとよいか。

- 水草を入れる理由は何か。

- 水そうはどこに置くとよいか。

- 卵の中で心臓が動き始めるのはいつごろか。

- 血液の流れも観察できるか。

- 卵にはなぜ細い糸のようなものがついているか。

- 水草に産みつけることには、どんな利点があるか。

解 答

1. ①背びれ ②切れこみ ③しりびれ
2. 後ろの方に切れこみがある。メスの背びれには切れこみがない。
3. オスのしりびれは大きく、平行四辺形に近い形である。メスのしりびれは小さく、後ろが短く三角に近い形である。
4. ①精子 ②受精卵
5. メスが産んだ「卵」に、オスから出された「精子」が結びつくことを「受精」という。
6. 「受精卵」という。受精卵だけが、新しい生命として育ち始める。
7. 水温25°Cほどの環境で、おおよそ10~14日で孵化する。水温が低いと時間がかかる。
8. 1日目には目のもとが見え、4~5日目には心臓が動き始め、10日目ごろには体の形ができあがり、やがて殻を破って孵化する。
9. すぐには食べない。お腹に残った「卵黄（らんおう）」の栄養で2~3日を過ごす。
10. ①水温 ②水草
11. 20~25°Cが適している。冬は急に冷えないように工夫する。
12. メスが卵を産みつけるため、また酸素を補給するためである。
13. 直射日光の当たらない明るい場所がよい。日光が当たりすぎると水温が上がりすぎる。
14. 受精から4~5日目ごろである。透明な卵を通して、心臓の拍動が確認できる。
15. 心臓ができるとすぐに血液が体内を巡り始め、顕微鏡で血流が見える。
16. 「付着糸」と呼ばれる細い糸で、水草に卵をしっかりとらませて固定するためである。
17. 流れに乗って遠くへ流されにくく、他の魚に食べられにくいという利点がある。